

2006年12月5日

毎日新聞寄附講座「ジャーナリズムの現在Ⅱ 災害とメディア」

第9回「ボランティアからみた報道」

ながおか生活情報交流ねっと

桑原真二 理事長

1. NPOの災害情報ボランティア活動

水害時の対応

行政との関係＝行政の拒絶を乗り越えて対応

行政の実態＝小さな自治体の問題点

地震時の対応

システム対応先・対応理由＝自治体と災害ボラセン

どんな情報発信をしたか＝水害時・地震時

マスメディアとBLOG等の役割＝信頼性の高い全体情報と当事者の詳細情報の組み合わせ

自治体のマスコミへの対応＝成功例は長岡市と山古志村→情報公開・報道対応職員設置

失敗例は小千谷市、川口町→協力を願う認識不足

2. 災害時の文字情報の重要性

災害時のメディア毎の情報の特徴

テレビ＝速報可、災害直後停電時は見れない、カーテレビは使える、映像等は重要、一過性

ラジオ＝速報可、カーラジオで聞ける、必要な情報が流れるまで聞き続ける、一過性

防災無線＝速報可、聞こえない場合も多い、聞き漏らし、聞き間違い

新聞＝速報不可、情報量多、印刷情報なので再確認可能、間違いが少ない

Web＝全てを網羅したメディア、しかし使えない人、停電時、ネットダウン時等问题有り

行政のプリント情報＝毎日プリント情報発信した越路町の例

印刷物配布の3大ネットワーク＝新聞店、町内会、タウン誌 それらの可能性

3. 取材を受けたときの話

災害情報NPOとして多くの取材を受けた経過から

他県からの応援記者が多く、担当が入れ替わるとまた同じ取材をしにくることなど

4. 新聞報道による広がり波及、人を動かす力

NPOの経験として

「山古志村のマリと三匹の子犬」が出版できた訳

「同紙芝居」が表彰されるに至った訳

他メディアとの違い＝残る記録、複製できる記録、信頼性

5. 情報の信頼性

マスコミの信頼性＝極めて高い

市民Web情報の信頼性＝一般的に低い

地域SNSの狙い＝いかに信頼性を高くするか

各メディアの災害情報連携の可能性

以上